

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動・国連支援募金 令和5年度の啓発活動状況

厚生労働大臣メッセージ

今日、大麻をはじめとして覚醒剤、麻薬などの薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

これらの薬物を乱用すると、自分の意思では止めることが極めて難しくなります。自らの体や心をむしばむだけでなく、家族や周りの人々にも大きな影響を与えるため、絶対に使用してはいけません。

令和4年の大麻の検挙者数は、過去最多を更新した令和3年に続く高い水準です。とりわけ、若年層の大麻乱用が顕著で、大麻の検挙者数の約七割を三十歳未満が占めています。

SNS等では、一部の外国で「大麻が合法化しているから安全」といった誤った情報や、大麻の密売を持ちかけるような投稿も多くあります。

しかし、大麻は決して安全でなく脳に影響を及ぼすものであり、若年期からの大麻使用が乱用と依存の危険性を高めることが懸念されています。

薬物乱用から自分自身を守るためには、どんな人から誘われても、立ち止まって冷静に考えること、きっぱりと断る勇氣を持つことが何よりも大切です。皆様一人ひとりが、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただき、ともに薬物乱用の無い社会を作っていくしましょう。

令和五年六月二十四日

厚生労働大臣 加藤勝信



厚生労働省、都道府県（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催し、国際連合（薬物犯罪事務所）、警察庁など関係省庁の協賛及びボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、ロータリークラブなどの民間団体後援のもとに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及びその一環としての「6・26ヤング街頭キャンペーン」が、6月24・25日を中心に関一カ月間、各都道府県ごとに、地域の実情に配慮した上で実施されました。

本普及運動は、国内における薬物乱用防止活動において官民一体となり、国民一人一人の薬物乱用問題に関する意識を高めるとともに国連総会決議に基づく「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図ることに、内外における薬物乱用防止に資することを目的としています。

この普及運動と並行して、（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、麻薬乱用防止活動に従事する民間団体の活動資金を国連を通じて支援するための「国連支援募金」運動を実施し、本年も全国から善意の浄財が集まりました。

また同期間中には、各種薬業関係団体、理・美容、クリーニング、浴場、飲食業等の各環境衛生同業組合等のご協力により、店頭でののぼり、ポスター掲出による啓発、募金運動などを行なう「地域団体キャンペーン」も地域の実情に沿った運営方式により実施されました。

以下、感染防止を踏まえた都道府県ごとの啓発活動の取り組み状況をご報告いたします。

北海道

月 日	6月20日から7月19日まで (新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の地区では時期を変更して実施)
開催場所	全道179市町村で実施
活動主体	北海道、北海道警察本部、北海道薬物乱用防止指導員連合協議会、北海道薬物乱用防止指導員各地区協議会(21地区)、ヤングボランテニア(ボースカウト、ガールスカウト、中学生、高校生、大学生等)、薬業関係団体、保護司会、青少年育成団体、関係行政機関等
参加人員	約500人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 北海道薬物乱用防止指導員、ヤングボランテニア、薬業関係団体会員、保護司、民生委員、警察官、市町村職員、保健所職員等が、地域の各種イベントにおいて、道民を対象に、覚醒剤や大麻等の薬物の乱用防止に関するチラシやポケットティッシュ等の啓発資材を配布するとともに、のぼりやポスターを掲示し、薬物乱用防止への理解と協力についての呼びかけを実施。 ②地域団体キャンペーン 道内の薬局、薬店、道の駅、温泉、スーパー、関係行政機関等の協力を得て、麻薬・覚醒剤等の乱用防止に関するリーフレット及びポスターの配布を行うとともに、協力団体の店頭でのポスター掲示や国連支援募金箱設置等の協力を要請。



北海道

青森県

月 日	6月25日、7月11日
開催場所	(青森市)青森市(JR青森駅前) (弘前市)さくら野百貨店弘前店 (八戸市)八戸市中心街商店街 はちのへホコテン会場
活動主体	主催 青森県、ダメ。ゼッタイ。普及運動実行委員会 協力団体(二社)青森県薬剤師会、(二社)青森県医薬品登録販売者協会、(二社)青森県医薬品配置協会、ライオンズクラブ、青森県薬物乱用防止指導員青森・弘前・八戸地区協議会、青森市、八戸市、青森県
参加人員	(青森市)45人 (弘前市)88人 (八戸市)67人
活動状況	6・26ヤング街頭キャンペーン 例年、青森市、弘前市、八戸市の3か所にて6・26ヤング街頭キャンペーンとして、通行人等に対し啓発用パンフレット、パンソウコウ等の配布をするともに薬物乱用防止の呼び掛けを行い、併せて「ダメ。ゼッタイ」国連支援募金活動を行っている。



青森県

岩手県

月 日	6月24日、25日
開催場所	①二戸保健所(6月25日) 道の駅おりつめ・産直オドデ館前(九戸村) ②宮古保健所(6月25日) マリンコープDORA(いわて生活協同組合)(宮古市) 計2箇所
活動主体	岩手県薬物乱用防止指導員、九戸村立江刺家小学校・長興寺小学校児童、二戸保健所、宮古保健所
参加人員	①二戸 38人 ②宮古 7人 計45人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内2会場にて、薬物乱用防止指導員等の協力のもと、一声運動、リーフレット等の配布により、薬物乱用防止啓発を行った。 ②地域団体キャンペーン 県薬剤師会、県生活衛生同業組合等の協力店舗においてポスター掲示、薬物乱用防止の呼び掛けを行った。



岩手県

宮城県

月 日	6月25日～7月29日
開催場所	ゆりあげ港朝市、かわまちテラス閑上、SEASONS WALKフォルテ、陸上自衛隊仙台東屯地、くりこま山車まつり会場、各地区イオングループ店舗 計8か所
活動主体	宮城県、薬物乱用防止指導員、食品衛生協会、高校生ボランティア、ライオンズクラブ、各地区薬剤師会、各市町村等
参加人員	約230人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 各会場において、薬物乱用防止指導員、高校生ボランティアが中心となり、啓発資材（リーフレット・絆創膏等）の配布、募金活動等を実施したほか、のぼりやパネル、薬物標本等を展示し、薬物乱用防止への理解と協力を呼び掛けた。一部会場では、薬物乱用防止啓発訪問事業によるクイズパネルや的当てセットを活用して実施した。 ②地域団体キャンペーン 県内68の後援団体に対してポスターを送付し、事業所への掲示等県民への啓発活動に協力を依頼した。



宮城県

秋田県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	秋田駅東西連絡自由通路ぼろーど（秋田市）6月26日 JR大館駅前（大館市）6月27日 イオンスーパーセンター本荘店（由利本荘市）6月27日 イオンスーパーセンター横手南店（横手市）6月27日 いとく鷹巣ショッピングセンター（北秋田市）7月8日 イオンタウン鷹巣（北秋田市）7月8日 雄勝文化会館オービオン（第37回湯沢市ふれあい広場）（湯沢市）7月9日 計7カ所 北秋田市ふれあいプラザ コムコム（パネル展示）
活動主体	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 秋田県実行委員会（大館鹿角地域、本荘由利地域、鷹巣阿仁地域、大曲仙北地域、能代山本地域、横手平鹿地域、秋田周辺地域、湯沢雄勝地域）
参加人員	109人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内7カ所で街頭キャンペーンを実施した。ヤングボランティア（高校生・大学生等）の協力を得て、駅などの公共施設、商店街、大型ショッピングセンター等において横断幕、のぼり等を活用しながら、「ダメ。ゼッタイ。」一斉運動、厚生労働大臣メッセージ伝達、ポケットティッシュやリーフレットなどの啓発資材の配布、国連支援募金活動を実施した。 鷹巣阿仁地域実行委員会が主体でポスター展示会を開催した。



秋田県



②地域団体キャンペーン

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動地域実行委員並びに薬物乱用防止指導員等の協力により、薬局や病院等にてポスターの掲示、リーフレットの配布、募金箱の設置、各団体の会合等での呼びかけ（趣旨の周知、募金への協力）、新聞広告による周知を行った。



山形県

月 日	6月20日、24日、26日
開催場所	① 6・26ヤング街頭キャンペーン イオンモール山形南、エスモール施設入口 ② 駅前街頭キャンペーン JR山形駅、JR新庄駅、JR米沢駅、JR南米沢駅、JR酒田駅
活動主体	県内各保健所
参加人員	78人
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 6月24日に県内のショッピングモール2ヶ所において、ヤングボランティア(高校生等)、薬物乱用防止指導員及び関係団体の協力を得て、買い物客等に薬物乱用防止を呼びかけるとともに、リーフレット等の啓発資料の配布を行った。 ② 駅前街頭キャンペーン 6月20、26日に山形県薬剤師会等の関係団体の協力を得て、県内主要駅において、主に通学中の高校生を対象に薬物乱用防止の呼びかけ及び啓発リーフレット、ティッシュ等の配布を行った ③ 地域団体キャンペーン 39協賛団体にポスター、リーフレット、募金箱を送付し、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。



山形県

福島県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	福島市、伊達市、二本松市、郡山市、田村市、須賀川市、石川町、白河市、棚倉町、鮫川村、会津若松市、喜多方市、会津坂下町、南会津町、南相馬市、いわき市 計16市町村21ヶ所 (郡山市は8月8日にキャンペーン実施)
活動主体	県、県薬物乱用対策推進本部、「ダメ。ゼッタイ。県普及運動実行委員会、各地区薬物乱用防止指導員協議会(県内16地区)、関係団体、ヤングボランティア(中学生、高校生、専門学校生、ボーイスカウト、ガールスカウト等)
参加人員	800人
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。普及運動期間中に、県内16市町村21ヶ所において6・26ヤング街頭キャンペーンを開催した。また、キャンペーン開会式の際に、ヤングボランティアが薬物乱用撲滅宣言を行った。 なお、各地区のキャンペーンでは、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体の協力を得て、JR駅前、ショッピングセンター等においてリーフレット、ポケットティッシュ、風船などを配布しながら薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが中心となり、国連支援募金活動を実施した。 ② 地域団体キャンペーン 関係行政機関、企業、薬局等の協力を得て、ポスター掲示やパンフレット配布を行い、また、国連支援募金活動を通じて一般住民等への啓蒙活動を行った。 ③ その他 全国高等学校野球選手権福島大会が実施されている3カ所の球場に横断幕「薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を掲示し、啓発を図った。

茨城県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	水戸市、小美玉市、笠間市、大洗町、ひたちなか市、常陸太田市、日立市、鉾田市、土浦市、つくば市、つくばみらい市、常総市、筑西市、坂東市、古河市 計20カ所(①、③合計)
活動主体	茨城県、茨城県薬物乱用対策推進本部、茨城県薬物乱用防止指導員協議会、関係団体、関係機関、ヤングボランティア(中学生)
参加人員	562人
活動状況	① 6・26街頭キャンペーン 県内12カ所で、薬物乱用防止指導員が中心となり、中学生のヤングボランティアに加え、薬事関係団体、ライオンズクラブ、青少年育成協会、市町村、警察等の協力を得て、街頭において、リーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資料を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。併せて、国連支援募金活動を行った。また、各地区において広報誌等を利用して地域に根ざした啓発活動を効果的に実施した。



福島県

月 日	6月10日～7月19日
開催場所	栃木県庁舎本館周辺、カンセキスタジアムとちぎ等
活動主体	栃木県、宇都宮市

栃木県



茨城県

②地域団体キャンペーン
県内の薬局等の薬事関係施設、理・美容所、旅館等の生活衛生営業施設、食品関係施設、病院・診療所、大学・専門学校等約3,000の店舗・施設の協力を得て、ポスターの掲示やリーフレットの配布を実施した。併せて店頭等に募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。

③その他
夏季茨城県高等学校野球大会会場（5球場）において横断幕の掲示を行い、選手、来場者、ケーブルテレビ視聴者に対する啓発を行った。

また、茨城空港、県庁2階広報コーナーにおいて、薬物乱用防止啓発パネル及び薬物標本の展示を行った。大洗駅、県庁2階広報コーナーにおいて、啓発メッセージ動画の放映を行った。

月 日	6月20日～7月27日
開催場所	前橋地区（ＪＲ前橋駅、ＪＲ新前橋駅）、高崎地区（ＪＲ高崎駅西口、ＪＲ高崎駅東口ベデストリアンデッキ）、渋川地区（ＪＲ渋川駅）、伊勢崎地区（ＪＲ伊勢崎駅）、安中地区（新島学園中学校・高等学校）、藤岡地区（ＪＲ群馬藤岡駅）、富岡地区（上信電鉄上州七日市駅、群馬県立富岡高等学校前）、吾妻地区（ＪＲ中之条駅）、利根沼田地区（ＪＲ沼田駅）、太田地区（新田ショッピングセンターニコモール、ジョイフル本田新田店）、桐生地区（マーケットシティ桐生）、館林地区（東武鉄道館林駅、東部鉄道東小泉駅） 計17カ所

群馬県

活動状況
①地域団体キャンペーン
【栃木県】（6月10日）
「県民の日」記念事業において、来庁者に薬物乱用防止啓発リーフレット等の啓発資材を2000部配布。
【宇都宮市】（6月24日）
・Ｊ２栃木ＳＣの試合会場において、啓発資材を2000部配布

②その他
【栃木県】
・以下の取組を実施し、薬物に関する正しい知識の普及啓発を行った。
✓県ホームページや県公式「Twitter」での啓発
✓県庁内展示スペースを活用した違法薬物の模型や啓発ポスター等の展示
✓地元テレビにおける啓発番組の放映
✓プロの劇団を活用した中学生に対する啓発演劇を期間中 8回上演
✓小学5・6年生及び中高生全員に対し、夏季休業前に啓発リーフレット枚150,000枚を配布



群馬県

活動主体	群馬県、前橋市、高崎市、群馬県薬物乱用対策推進本部、群馬県「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用防止推進連絡会議「ダメ。ゼッタイ。」各地区推進連絡会議（12地区）、ヤングボランティア（高校生、大学生等）、関係団体（薬剤師会、保護司会、民生委員児童委員協議会、少年補導員連絡会、医薬品配置協会、ライオンズクラブ、更生保護女性会、食品衛生協会、ロータリークラブ等）
参加人員	299人
活動状況	①県内17カ所で、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体、警察関係職員、県職員、保健所及び保健福祉事務所職員、市町村職員等、合計299人が駅前やショッピングセンター、高校等において、薬物乱用防止啓発リーフレット、大麻乱用防止啓発リーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布しながら薬物乱用防止を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーンとして、薬局や飲食店、理容店、クリーニング店、旅館等の協力を得て、ポスターの掲示及び一声運動を実施し、併せて店頭に募金箱を設置してもらい国連支援金募金活動への協力を呼びかけた。 ③7月8日から27日までの期間、第105回全国高等学校野球選手権群馬大会が実施された上毛新聞敷島球場及び高崎市城南野球場に「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕を掲出した。 ④7月9日にザスパクサツ群馬の試合会場にて、群馬県警察本部と合同で、来場者に対し薬物乱用防止啓発を実施した。

埼玉県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	イオンモール川口前川店、北朝霞駅、朝霞台駅、越谷市民球場、草加朝顔市会場、大宮駅、嵐山夏祭り会場、坂戸駅、北坂戸駅、若葉駅、所沢ベルーナドーム、行田市教育文化センター、加須駅、久喜提燈祭り会場、熊谷うちわ祭会場、本庄祇園まつり会場、秩父あめ薬師縁日会場
活動主体	埼玉県、埼玉県薬物乱用防止指導員連合協議会、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動埼玉県実行委員会、埼玉県警察本部、埼玉県教育委員会、各市町村、(一社)埼玉県薬剤師会、ライオンズクラブ3301C地区、日本ボーイスカウト埼玉県連盟など
参加人員	約200人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 駅頭等において、のぼり等を掲示するとともに、リーフレット、ポケットティッシュ及びうちわ等の啓発資材を配布した。 ②地域団体キャンペーン 関係団体の店頭等にポスター掲示及び募金箱設置を行い、国連支援募金の呼びかけを行った。 ③その他 県広報誌や市町村広報紙等の様々なメディアを活用し、薬物乱用防止の広報を実施した。また、県内の学校や関係団体・企業ヘリーフレットを配布し、国連支援募金の呼び掛けを行った。

千葉県

月 日	6月11日～7月29日
開催場所	いすみ市、市川市、市原市、習志野市、東金市、鴨川市、館山市、柏市、松戸市、四街道市、千葉市、船橋市、野田市、銚子市、香取市、木更津市、茂原市 計17箇所
活動主体	千葉県、千葉県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、千葉県薬物乱用防止指導員協議会
参加人員	539人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内17ヶ所において、各薬物乱用防止指導員地区協議会が中心となり、警察署、市町村の関係機関やライオンズクラブ、ロータリークラブ等の関係団体及びボーイスカウト、ガールスカウト等のヤングボランティアの協力を得て、うちわ、ポケットティッシュ、リーフレット等啓発資材の配布を行い薬物乱用防止を訴えた。 ②地域団体キャンペーン 医師会、歯科医師会、薬剤師会、業協会、理美容組合、クリーニング組合等の協力を得て、関係施設にポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し、薬物乱用防止を訴えた。



埼玉県

③ 広報啓発活動
県ホームページ、ラジオCM、新聞等の媒体を通じて薬物乱用防止を訴えた。



千葉県



東京都

月 日	① 6月25日 ②③ 6月20日から7月19日までの期間
開催場所	①「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」都民の集い（池袋西口公園野外劇場） ②行政機関（都保健所 他）
活動主体	①都民の集い（主催…東京都、東京都薬物乱用対策推進本部、東京都薬物乱用防止推進協議会、厚生労働省、（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター 共催…豊島区、警視庁） ②行政機関
参加人員	①約1500人
活動状況	①都民の集い △催し物▽ （1）主催者挨拶（2）警視庁音楽隊の演奏（3）警察犬（薬物捜索犬）デモンストレーション（4）啓発動画放映△企画展示等▽ （1）薬物乱用防止等企画展示（ポスター・パネル等）（2）啓発リーフレット・グッズ配布（3）国連支援募金活動（4）着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ。」君、ピーボくんによる啓発活動（5）警視庁キャラバンカー ②地域団体キャンペーン 関係行政機関及び民間団体等にリーフレット及びポスターの配布を行うとともに、協力団体の店頭でのポスター掲示及び国連支援募金箱の設置等の協力要請を行った。 また、関係行政機関において薬物乱用防止啓発ブースを設置し、来所者に対し薬物乱用防止を訴えた。 ③その他 都ホームページ、都広報誌などのメディアや、都及び都保健所のデジタルサイネージを活用し、薬物乱用防止に関する内容を掲載した。 また、Twitter及びYouTubeで啓発動画を放映し、主に若年層に対して薬物乱用防止を訴えた。

神奈川県

月 日	7月5日ほか
開催場所	横浜駅等
活動主体	県薬剤師会、神奈川県、薬物クリーンかながわ推進会議（薬物乱用防止指導員協議会、麻薬等薬物相談員会、保護司会連合会、横浜税関、県内関係機関等182団体）、市町村、教育委員会、県警察本部等
参加人員	約2200名（横浜駅）
活動状況	薬物クリーンかながわ推進会議が中心となり、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の実施期間中に県内各地において、各関係機関・団体及び市町村にポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。 特に、7月5日に横浜駅において、関係団体等の協力を得て「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーンを実施した。着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ。」君も駆けつけ、リーフレット等の啓発資料の配布による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、横断幕やポスターを活用し、普及啓発を行った。 その他、県内大学において学生向けの情報提供を目的に開設しているサイトを活用し、県内の大学生に向けて薬物乱用防止を呼び掛けた。



東京都

新潟県

月 日	6月24日ほか
開催場所	村上市、新発田市、三条市、長岡市、魚沼市、南魚沼市、十日町市、柏崎市、上越市、糸魚川市、佐渡市、新潟市 12市12カ所
活動主体	新潟県、新潟県薬物乱用対策推進本部（新潟県教育委員会、新潟県警察本部、新潟地方検察庁、新潟海上保安部、新潟保護観察所、新潟税関支署、新潟労働局、新潟少年鑑別所、東京出入国在留管理局新潟出張所、（二社）新潟県医師会、新潟県精神科病院協会、（公社）新潟県薬剤師会、新潟県市長会、新潟県町村会、新潟県薬物乱用防止指導員、（一社）新潟県歯科医師会、新潟県青少年健全育成県民会議（社福）新潟県社会福祉協議会、日本ボーイスカウト新潟連盟、（二社）ガールスカウト新潟連盟、国際ロータリー第2560地区ガバナー事務所、ライオンズクラブ国際協会3331-A地区、（公社）新潟県防犯協会、（公社）新潟県食品衛生協会、（公財）新潟県生活衛生営業指導センター、（一社）新潟県医薬品登録販売者協会、新潟県医薬品配置協議会、日本医薬品卸勤務薬剤師会新潟県支部、新潟県高等学校野球連盟、新潟県ラグビーフットボール協会



神奈川県

参加人員 約200人

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン
県内12会場において、高校生ボランティアや薬物乱用防止指導員等各関係団体の協力を得て、リーフレットなどの啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。また、同時に国連支援募金も行った。

② YouTube 広告等

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間(6・20～7・19)に合わせて、昨年度新潟県警察ノードラッグ大使に就任した佐渡市の太鼓芸能集団「鼓童」からいただいたメッ

セージ動画をYouTube 広告として配信した。
7月7日(金)に行われたサッカー「リーグ、アルビレックス新潟のホームゲームにて、新潟県警察ノードラッグ大使のN e g g i c o (アイドルユニット)からいただいたメッセージ動画を大型スクリーンで放送した(試合前)。

③ その他

全国高校野球選手権大会期間中、会場のハードオフエコスタジアムに薬物乱用防止啓発の横断幕を掲出し、高校生をはじめ広く県民に啓発した。

県庁構内等で薬物乱用防止啓発の横断幕やポスターを掲出するとともに、庁舎内の生協売店や金融機関等に国連支援に係る募金箱を設置し、来庁者等に対して啓発を行い、募金の協力を呼びかけた。



新潟県

富山県

月 日 7月1日

開催場所

富山市、高岡市、魚津市、滑川市、砺波市
計 5市 5ヶ所

活動主体

参加人員

130人

活動状況

薬物乱用防止指導員、ボランティア団体等が、県下五会場(繁華街、ショッピングセンター等)において横断幕やのぼりを掲示し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、リーフレット、ポケットティッシュの啓発資材を配布した。併せて、国連支援募金活動を実施した。

青少年が集うイベント(第105回全国高等学校野球選手権富山大会)において、会場での横断幕・ポスター掲示を行うとともに、場内放送及び啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。

また、富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会参加団体の協力を得て、店頭等でのポスターの掲示や啓発資材の配布を行うとともに、国連支援募金運動への協力を呼び掛けた。
その他、交通広告を利用し、薬物乱用防止広報活動を実施した。



富山県

石川県

月 日 6月25日ほか

開催場所

金沢市、小松市、白山市、七尾市、輪島市
計5会場

活動主体

県、警察本部、金沢市保健所、薬剤師会、保護司会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、ライオンズクラブ、更生保護女性連盟、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト等

参加人員

210人

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン
金沢駅前や大型ショッピングセンターなど県内5会場において、ヤングボランティア(ボーイスカウト、ガールスカウト)、薬物乱用防止指導員及び薬業団体の会員が中心となり、会場を訪れた買い物客等にリーフレットやポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、広く県民に薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが国連支援募金への協力を呼びかけた。

②地域団体キャンペーン

6月20日から7月19日までの期間、薬剤師会等の地域団体の協力を得て、薬局や生活衛生営業施設等にポスターを掲示するとともに、募金箱を設置し、薬物乱用による危害について一声かける「一声運動」を実施するとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。

③青少年への啓発活動

7月11日から開催された第105回全国高等学校野球選手権石川大会の期間中に、関係機関の協力を得て、ポスターや横断幕を掲示し、球場に応援にきた学生ら若者に薬物乱用防止の啓発を行った。



石川県

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

県内6か所のショッピングセンター等で、ヤングボランティア（ガールスカウト、ボーイスカウト）、薬物乱用防止指導員が中心となって、啓発物（リーフレット、ティッシュ、風船等）の配布、ポスターやのぼり旗等を使用した街頭キャンペーンを実施し、薬物乱用防止の呼びかけおよび国連支援募金活動を行った。

②地域団体キャンペーン

病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店等の各関係機関・団体および市町に、ポスターの掲示および募金箱の設置を依頼し、薬物乱用防止の普及啓発と国連支援募金への呼びかけを行った。

③その他

6月19日から1週間、福井県庁1階ホールで薬物乱用防止啓発パネル展を実施した。また、キャンペーン期間に限らず、各学校の要望に応じて薬物乱用防止啓発パネル展および薬物乱用防止教室を実施し、若年層への薬物乱用防止について啓発を行った。

月 日	6月17日、24日、25日
開催場所	福井市、坂井市、勝山市、鯖江市、敦賀市、小浜市 県内計6か所
活動主体	県、各警察署、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、日本ボーイスカウト福井連盟、（二社）ガールスカウト福井県連盟
参加人員	約200人

福井県



福井県

山梨県

月 日 6月24日

開催場所 ショッピングセンター、道の駅等
合計 7箇所

活動主体

県、県薬物乱用対策推進本部、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、県警察本部、警察署、市町村、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、医師会、歯科医師会、薬剤師会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、クリーニング生活衛生協同組合、学校、ボーイスカウト、ガールスカウト等

参加人員 約360人

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

県内の4保健所単位の各地区薬物乱用防止指導員協議会が中止となり、各関係機関・団体等の協力を得る中で、参加学生代表による「ダメ。ゼッタイ。」普及運動」における厚生労働大臣メッセージの披露をはじめとした式典を開催した。その後、参加学生やボーイスカウト等が中心となって、リーフレットその他の啓発資料の配布等による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、国連支援街頭募金活動を行った。

②地域団体キャンペーン

運動期間中、各関係機関・団体や市町村役場等にリーフレットその他啓発資料等の配布を行うとともに、ポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

